

会 議 録

| | | | | | | |
|--------------------|-----|---|----|------|------|----|
| 会議名 (審議会等名) | | 第3回相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会 | | | | |
| 事務局 (担当課) | | 市民協働推進課 電話042-769-9225(直通) | | | | |
| 開催日時 | | 令和3年2月3日(水) 午前10時~午後0時15分 | | | | |
| 開催場所 | | Web開催 | | | | |
| 出席者 | 委員 | 6人(別紙のとおり) | | | | |
| | その他 | 0人 | | | | |
| | 事務局 | 4人(市民協働推進課長、経営監理課長 他3人) | | | | |
| 公開の可否 | | 可 | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 | 0人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 | | | | | | |
| 会議次第 | | 1 開会 2 議題 (1) 施設のコンセプト、機能等の検討について (2) 検討の取りまとめについて 3 閉会 | | | | |

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 施設のコンセプト、機能等の検討について

事務局から前回会議の振り返りに係る説明を行ったのち、委員長の進行のもと施設のコンセプト及び機能等についてワーク形式で検討を行った。

【主な意見等】

資料1の整理を進めるに当たって、まず「必要度」については、参考資料2の「必要度」の合計点数を目安に、50点以上をA評価、40点以上をB評価、30点以上をC評価及び29点以下をD評価と仮置きし、その評価が適正かどうか確認することとしたい。その後、機能ごとにコンセプトを達成するために必要な改修案等の意見を整理していきたい。なお、参考資料2の合計点数については、委員が共通して残すべき機能だと思ったものの点数が高くなっていると考えている。また、「必要度」の評価について、A評価がすなわち現状維持という趣旨ではなく、更なる改善点があれば意見を付議することとし、D評価については、すぐに廃止すべきというものではなく、現状から変更等が必要なものとして示すこととしたい。議論の前提として、改修については、既存施設の躯体等を活かし、諸室の機能変更等を行うものとして検討を進めることとしたい。

1階フロアについて

プール施設について、流水プール及びウォータースライダーについては、スペースを取ることや維持管理経費がかかることが想定されるため、廃止にした上で他のプール機能を充実させることが望ましいと考える。例えば、25mプールを2コース増設し、上級者用とその他でコースを分けられるイメージ。

ウォータースライダーについては、多用途に利用ができないため、単体の機能としては優先度が低いと感じている。しかしながら、このスライダーが利用者にとって「これがあるから良い」というようなアイデンティティになり得るとか、施設の大きな収入源になるのであれば、残しても良いと考える。

また、子供・幼児用プールについては、可動式に深さが変更できると良い。

子供・幼児用プールを可動床にすることで、成人のアクアビクスなど他の用途でも利用できるようにするという考え方もある。スライダーについては、これを使って何かをするという意見もなかったため、優先度は低いと感じている。

展示コーナーの壁の存在により正面入口から多目的ルームまで見づらい状況である。この視線を遮る壁を少し取り除くなどの工夫により、展示コーナーと多目的ルームの一体利用ができると良い。

発表や展示など文化的な活動に対するニーズは委員からも挙げられていたため、引き続き、展示コーナーは必要だと考えるが、これまで多目的ルームが有効に活用されて来なかったように感じている。改善策として、展示コーナーと一体的に使えるようにするのは良い。

当初、軽食・喫茶スペースだった多目的ルームについては、現在、一部のガラス張りを目隠しし、トレーニング室として運用している。多用途に活用できるよう床、壁、仕切り方などを工夫すると良い。多目的ルームと展示コーナーを一体利用するのは賛成である。

1階ホール（待合スペース）の壁面に映像を映すなど、展示コーナーや多目的ルームも一体的に活用してもらいたい。

細長い形状である多目的ルームは、多くの人が舞台を観るような使い方は不向きだと考える。1階ホールの道路側に舞台を設置したり、階段の上からスクリーンを下ろしプロジェクターで映写するなど、待合スペースの広い空間を活かし、人々の交流やイベントができる空間になると良い。

従来、市が細部まで決定して改修等を進めることが多かった。今後は、民間事業者の力を活用して改修等を進める中で、場合によっては、改修の段階で施設を実際に運営する民間事業者が参画しながら進める手法も検討したいと考えている。そのため、諸室の機能変更案だけでなく、この施設でどのような事業を実施したいかについても、意見を伺えればと考えている。それを基に、今後、民間事業者へのサウンディング調査を実施していきたい。

1階ホールは広いが、売店は狭く感じる。また、複数人で施設を利用した際に、ひと休みできる環境としてカフェスペースと売店があると良い。

1階ホールについては、平時は机や椅子等を設置し休憩できる空間として、イベント時には可動式でスペースを確保できるような形が望ましい。

1階ホールは動線上、全ての来場者が通る場所であるため、イベントや展示に有効である。また、休憩場所としてだけでなく、一人でも複数人でも、パソコンを使ってちょっとした作業や打合せ等ができるスペースがあると良い。

昨今のコロナ禍で注目されているリモートワークの場所としても考えられる。1階フロアは、「ふれあい・交流」のコンセプトを中心とした場所になることが想定される。現在は、正面入口から受付職員が見えにくい状態であるため、イメージとしてコンシェルジュのような案内機能があると、利用者の安心につながるのではないかと。

展示コーナーの壁を取り壊すことは、物理的に可能か。1階フロアは、もう少し開放的な空間で、カフェのようなものはあった方が良く考える。

構造上の確認は必要になるが、全部取り壊せなかったとしても、一部でも見やすい工夫をしていくことが必要だと考える。また、カフェについては、1階フロア

でeスポーツ大会や地域イベントを開催し、集客が常時見込めれば需要も高まると思われるため、サウンディング調査等を通じて検討するのが良いのではないかと。

民間事業者へのサウンディング調査では、費用対効果も含め財政コストをかけない方法や、省エネなどSDGsの視点を踏まえた良い提案が期待できるのではないかと考えている。

2階フロアについて

障害者専用プールについては、どこの公共施設にもある訳ではなく、一般のプールで障害者と健常者が共用しているところが多い。基本的には、1階のプールに機能を集約し共用とすることが望ましいと考える。しかしながら、障害者プールには家族更衣室等もあり心理的側面も勘案すると、機能として残すことも考えられるが、障害者プールという単機能ではなく、小学校のプール授業や、水を使った自主事業など、1階プールと同じ機能として残すのが良いと考える。

「共生社会の実現」に向けては、1階プールと障害者プールというように分けられない方が良いのではないかと考える。改修に当たっては、2階のプール機能を廃止するのではなく、小学生への開放等、幅広く利用できるプールとすることで民間事業者も提案しやすくなると思われる。

「健康」という部分で、第1プール、第2プールのように、1階及び2階に健常者及び障害者のいずれもが利用できるプールを残すのが良いのではないかと。その上で、障害者の利用に必要な設備は、これまで同様に2階に維持することが考えられる。

障害者プールについては、1階プールとの併用が良いと考える。しかしながら、更衣室も共有するか否かについては、障害者の心理状況等を考慮していく必要がある。

多目的会議室については、会議だけではなく、様々な人が多目的に利用できる部屋になると良い。

娯楽室及び談話室については、いずれも必要性がD評価であり、改善が必要である。使い勝手の良い床や壁に改修することで、楽器やダンスを実施できる部屋にすることも考えられる。また、談話室のように、畳の部屋があった方が良いのか。フローリングの方が、多用途に使用できて良いと思う。

施設の近くに県立相原高校があるため、軽音楽ができるような空間があると良いのではないかと。

地域住民による音の出る利用も想定されるため、一部は防音仕様の部屋があることで利用の幅が広がると考えている。2階フロアについては、作業や練習など今以上に多用途に使えるスペースにするという意見が多かった。主な目的としては「学び」というコンセプトを実現するフロアになるのではないかと。

《 3階フロアについて》

大広間については、フローリングにすることで用途が広がる。伝統文化や和の要素が含まれる事業については、可動式の畳を敷くことなど用具で対応できる。また、リフレッシュルームについては、暗い印象がある。明るい雰囲気にした上で、一人でも、複数でも利用ができる空間になると良い。

リフレッシュルームについては、カフェのような照明が明るい空間とし、ソファだけではなく、軽食が取れるようなイメージが良い。

地域の人と話をした際に、この施設には鏡のある部屋が一つもないという声を聞く。特に大きな部屋では用途が広がるため、ぜひ鏡を設置してほしい。また、2階の多目的会議室に鏡があっても用途が広がると考える。

大広間の定員100人に対し、毎日100人の利用がある訳ではない。2階の娯楽室と談話室の機能を大広間に集約し、多目的室として使用頻度を高めていくことも良いと考える。可動式間仕切りにより2分割で使用できるイメージである。

3階は、浴室を中心としたフロアではないという認識で良いか。大広間は、目的を持った予約での利用をメインとし、浴室利用者はリフレッシュルームや1階のスペースで休憩するようなイメージで良いか。

3階の浴室、リフレッシュルームは、もう少し安らげる空間になると良い。大広間でイベントを実施する時には、浴室利用の方も一緒に楽しめるようなイメージである。習ったことを発表できるようなスペースになると良い。

発表会等は1階のホールや多目的ルーム等を活用し、3階大広間はサークル活動や自主事業等で利用してもらう形が適当ではないか。

大広間を自由利用にすると特定の人がカラオケを断続的に利用し、他の利用希望者が利用しにくくなる恐れがある。予約制や可動式間仕切りの活用等で、多くの市民が利用できるスペースが望ましいと考える。

その他

「バリアフリー」「Wi-Fi 完備」を前提として、利用率を上げるために様々な機能を入れるのは良いが、多用途になり過ぎて、結局、この施設は何をすところかが分からなくなってしまう可能性もある。使い方のイメージを利用者と共有する仕組みがあると良い。

施設全体として更衣室、シャワー及びトイレについては、全面的にきれいに改修をしたほうが良いと考えている。また、使い勝手も考慮して配置を検討して欲しい。

健常者と障害者を分ける意味がどこまであるのかという思いもある。自分自身も年齢を重ねて車イスを利用することになるかもしれない。それでもプールで泳ぎたいと思った時に、気軽に通えるプールがあり、様々な人が変わらずに利用できる施設が当たり前になってくる気がしている。

施設が多用途になれば、前回提案のあった宿泊イベントやキャンプの練習など様々な事業が期待され、指定管理者など事業の担い手の役割が大きくなるものと思われる。貸館機能だけでなく、事業者がイベント実施時にバックヤード、控室として利用できるスペースも必要ではないか。

浴室やプールなどの目的で来場された方が、他の様々な活動に触れられる場所になるのがこの施設の目指す姿だと考える。現在は、扉から会議室等の中の様子が見られない状況であり、窓枠を設ける等、他の人の活動が感じられるオープンな作りになると良い。

施設のコンセプトについて

施設のコンセプトについて、「健康」、「学び」、「ふれあい・交流」としているが、「ふれあい」「交流」についていずれか一つに絞るという選択肢もあるかと考えている。より広範な用途で様々な活動等の展開が期待できることから、併記のままが良いと思っているが如何か。

(一同) 異議なし。

(2) 検討の取りまとめについて

事務局より資料の説明を行ったのち、取りまとめ方法について確認した。

【主な意見等】

本検討委員会報告書の扱いはどうなるのか。

本報告書を参考に庁内で検討を進め、民間事業者へのサウンディング調査を行ってまいりたい。また、報告書は、市ホームページ等での公開を考えている。

報告書は公開する方が良いと考える。今回の改修について広く周知することで、本施設に対する考え方を変えていくという意義もあるかと思う。

北市民健康文化センターの改修等がどのように進んでいるのか、適宜、情報共有してもらいたい。

3 閉 会

以 上

相模原市立北市民健康文化センターの在り方検討委員会 委員名簿

(令和3年2月3日開催)

(令和2年9月1日現在)

| | 氏名 | 所属等 | 備考 | 出欠 |
|---|--------------------|----------------|-----|----|
| 1 | あさひ 朝日 ちさと | 東京都立大学都市環境学部教授 | | 出席 |
| 2 | えんどう けいじ 遠藤 啓治 | 中小企業診断士 | | 出席 |
| 3 | こばやし みちこ 小林 美智子 | 橋本地区まちづくり会議委員 | | 出席 |
| 4 | さとう かねお 佐藤 金男 | 大沢地区まちづくり会議代表 | | 出席 |
| 5 | はらだ なおゆき 原田 尚幸 | 和光大学現代人間学部教授 | 委員長 | 出席 |
| 6 | いわもと あきら 岩本 晃 | 相模原市市民局次長 | | 出席 |

(行政職員を除く五十音順 敬称略)